

# 主伐・再造林に向けた森林組合や林業事業体との連携

## 1 はじめに

私は、平成27年度に森林総合監理士の資格を取得し、森林総合監理士に求められる長期的かつ広域的な視点に立って、これまで職務を行ってきました。本県では森林資源の多くが成熟期を迎え、主伐・再造林による森林資源の循環利用を一層進めていくことが重要となっている中、依然として、林業の収益力や安全性の向上、担い手不足などが課題となっています。これらの課題の解決に向けて、微力ではありますが、県の出先機関で勤務する活動内容についてご紹介させていただきます。

## 2 奥能登農林総合事務所での取組

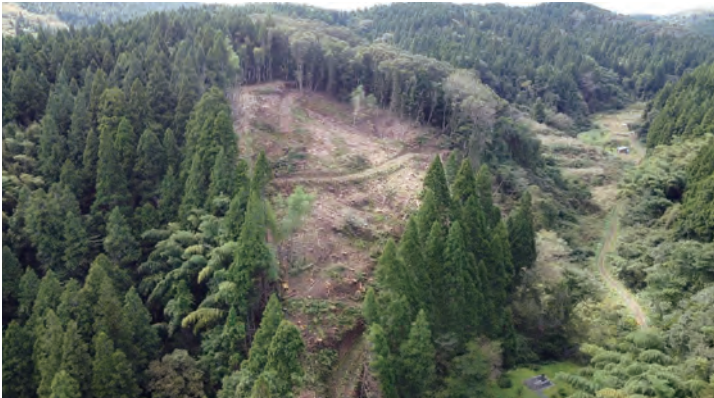
令和3年度は、県の最北部、能登

半島にある奥能登農林総合事務所勤務してまいりました。

当管内は県内でも有数の森林資源が豊富な地域で、森林資源の循環利用を一層推進する必要がありました。しかし、木材価格の低迷による森林所有者の意欲の低下や担い手不足等の理由から、これまで主伐・再造林が進んでいませんでした。

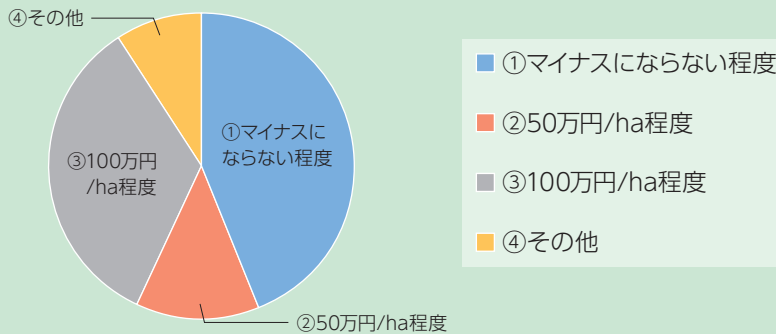
そこで、まずは、現在の森林所有者の主伐・再造林に対する意向の把握を行うために、主伐・再造林に関するアンケート調査を実施しました。その結果、179名の回答のうち約6割が「マイナスにならない程度〜50万円/ha程度の収入であれば主伐・再造林を行いたい」と答えており、これまで当管内では少数と考えられてきた主伐・再造林を希望する森林所有者が相当の割合存在することが確認できました。この結果を、

森林組合や林業事業体と共有することで、主伐・再造林の施策提案等、合意形成の取り組みを進めることができました。



主伐実施箇所(石川県輪島市内)

どの程度の収入があるようなら、森林の主伐再造林を行いますか？



主伐再造林に関するアンケート調査結果(抜粋)



また、県が実施した航空レーザ測量・森林解析データを活用し、森林資源量調査や路網設計等の効率化にも取り組みました。具体的には、測量・解析データを森林クラウド等で森林組合や林業事業者等と共有し、林分材積、立木密度分布、微地形、傾斜等の確認方法や、路網の線形、横断の検討方法等を指導しました。各組織の担当者からは、データ等の活用方法について認識が深まったと聞いています。



航空レーザ測量・森林解析データを活用した研修

### 3 南加賀農林総合事務所での取組

令和4年度からは、県南部の南加賀農林総合事務所勤務しています。当管内では主伐・再造林は少しずつ進んでいるものの、森林施業プランナーの不足や境界の明確化、苗木の確保等が課題となっていました。そこで、前任地での活動経験を活かして、航空レーザ測量・森林解析データなどの活用を森林組合の職員に指導し、境界の明確化作業の効率化に取り組みました。実際に研修の



南加賀農林総合事務所での研修

参加者からは、「作業効率の向上につながる」という声も聞いており、少しずつですが、現場で定着しつつあると実感しています。

また、苗木については、地元森林組合と社会福祉施設の林福連携の取り組みを促すことにより、広葉樹のコンテナ苗の生産に着手することができました。県林業試験場にも協力を依頼し、コンテナ苗の植栽管理研修や散水等の生産指導等を行い、今年度は広葉樹のコンテナ苗を約1万本生産できる見込みとなり、生産体制が軌道に乗り始めています。来年



コンテナ苗の植栽管理研修

度以降も引き続き関係機関と連携して、コンテナ苗の生産指導のほか、低コスト再造林にも積極的に取り組んでいく予定です。

### 4 結びに

森林総合監理士の仕事は、長期的かつ広域的な視点に立ち、森林・林業・木材産業関係者等の緊密な協力を図ることが重要です。今後もこれを念頭に、市町村や関係業界の担当者に対して、効果的な普及指導に努めていきたいと考えています。



コンテナ苗の生産指導